

樸櫨 QUERCUS CORTEX⁶⁾

(基原)

ブナ科FagaceaeのカシワQuercus dentata Thunb、クヌギQuercus acutissima Carruthersまたはその他近縁植物の樹皮を乾燥したもの。^{4) 5) 14) 15) 20) 23)}

(由来)

・『新修本草』(659)には榭若の名で収載されており、「皮味苦水煎濃汁除~~毒~~毒及瘰俗用甚效」とある。^{14) 15) 19)}

・『本草綱目』(1596)では、榭実の項に「俗称衣物不整者为樸櫨」とある。そして「榭に2種あり。一種叢生小者名枹(かしわ)。一種高者名大葉櫨。」
榭若は若即葉の名として、その木皮は俗名赤龍皮と収載されている。

・『和漢三才図絵』(1713)では、『本草綱目』の内容と同じ記載がされているが、枹の項に樸櫨と称されており、榭をくぬぎと読んでいる。また、榭実(どんぐり)の項にクヌギの樹皮を榭皮またはその樹皮が赤く、粗く厚いことから赤龍皮と称している。^{17) 19)}

・『一本堂薬選』(1729)では「樸櫨は即ち榭樹の皮を用い、皮の厚き者を以て佳と為す。これを我が国で孤奴及(くぬぎ)と呼ぶ。」とある。^{16) 21)}

・『中薬大辞典』によるとカシワの樹皮を榭皮、クヌギの皮を橡木皮としている。⁴⁾

・カシワの名前は、葉を利用して食物を盛ったり、包んだり、焼いたり、蒸したりしたので、炊葉(かしきは)と呼ばれ、カシキがカシワになったといわれている。²¹⁾

・クヌギは、“国の木”が変形したものである。クニノキからクノキ、さらにクヌギに転訛したものとされている。我が国では、櫨、橡の字をあてるが、中国では麻櫨とも書く。そしてその樹皮は土骨皮と称している。⁷⁾

またそれらの実をドングリと称する。²¹⁾

(性状)

本品は板状又は半管状の皮片で、厚さ5~15mm、外面は厚い周皮を付け、縦に粗い裂け目があり、灰緑色または暗灰色で、内面は淡紅かっ色を呈し、木部の付着、類黄色の繊維の縦走が認められる。折面の樹皮付近は顆粒状を呈し、木部に接するところは繊維性である。^{20) 23)}

本品はにおい及び味はほとんどない。²³⁾ 渋味を有する。²⁰⁾

本品の横切面を鏡検するとき、コルク層にはコルク石細胞が散在し、皮部柔組織中には大きな石細胞群及び繊維群があり、石細胞はシュウ酸カルシウムの単晶を含む。²³⁾

(産地)

日本各地(西日本各地)²⁰⁾

(品質)

【灰分】7.0%以下

【酸不溶性灰分】0.5%以下

【乾燥減量】11.0%以下(6hr.)²³⁾

【選品】

渋味を呈し厚みのあるものが良い。²⁰⁾

(成分)

タンニン(3.7~14.44%含む。)^{4) 5) 7) 21)}

フラボノイド: quercitrin^{5) 21)}

でんぷん⁵⁾

シヨ糖⁵⁾

脂肪⁵⁾

(現代薬理)

くぬぎ

【昇圧作用】

血管運動神経作用薬である quercitrin が含まれる。⁵⁾

【収斂作用】

タンニン を豊富に含み、下痢などに対して止瀉的に作用する。⁵⁾

【アメーバー赤痢の治療】

樹皮1斤に水3000mlを加え、1500mlにする。大人は1日3回、1日30~50mlを3~7日続けて服用する服用後1~2日で効果がみえはじめる。700例余りのうち有効率は約85%。⁴⁾

(古典的薬効)

薬味：苦^{4) 7) 17) 18)} 渋^{7) 17) 18)}

薬性：平^{4) 17)} (橡木皮)

効能：

<本草綱目>『悪瘡を洗い、癩癧を吐し、五臓を益し、赤痢、腸風下血を止め、そして敗爛瘡、乳瘡を治す。』^{7) 18)}

<本草拾遺>『主に悪瘡が風邪にあたり毒に犯された者は、煎じた汁で瘡を洗うと膿血がすっかり止まる。』⁴⁾

<一本堂薬選>『破瘀血、黴瘡結毒、諸悪瘡結毒、撲損宿滞瘀血。』^{5) 16)}

<日華諸家本草>『治水利、消瘰癧、除恶瘡。』⁴⁾

<薬性論>『悪瘡を治すには、煎じて患部を洗う。』⁴⁾

<唐本草>『煎じた濃汁は、蟲及び癩を除く。』⁴⁾

(臨床応用)

・収斂止血薬⁷⁾

・下痢止め薬

・水虫に土骨皮の粉末を10日程飲むと治る。また湿疹、じんましんなどの皮膚病やねぶとのような腫れものにもよい。民間療法では、このものだけを煎じて飲むが、漢方では他の薬と一緒にいくつかいれて用いる。²²⁾

・打撲に煎じた汁で洗う。処方としては治打撲一方があげられる。

(民間薬としての使用方法)²⁵⁾

【蕁麻疹】木皮100gを煎じて飲む。

【ねぶと】根を持つようなはれものに、木皮を煎じて飲む。

【水虫】木皮の粉末3~6gを1日量として飲む。

【下痢】しぶる下痢に木皮10~20gを1日量として濃く煎じて飲むと良い。

(その他)

土骨皮という言葉は、日本の経験方で用いられ、民間薬としても用いられていた。

²⁵⁾

これは推測であるが、我が国では中国の槲皮と異なる日本独自の槲皮を用いてきた。そのため、土はその土地の。つまりは日本の。槲皮(こくひ)の槲の当て字として骨が用いられ(こっぴ)となったか、こくひ→こっぴとなり骨の字が当てられたと予想する。

(参考文献)

- | | |
|----------------|-------------|
| 4) ウチダ和漢薬の生薬資料 | |
| 5) 生薬ハンドブック | P184 |
| 7) 漢方製剤の知識 | P57, 58 |
| 14) 和漢薬物学 | P179, 180 |
| 15) 漢方薬理学 | P400 |
| 16) 一本堂薬選 | P213 |
| 17) 和漢三才図絵 | P1238, 1239 |
| 18) 本草綱目 | P1037, 1038 |
| 19) 新修本草 | P327 |
| 20) 新常用和漢薬集 | P124 |
| 21) 薬草カラー大事典 | P35, 36, 37 |
| 22) 大塚敬節著作集 | Vol. 7, 372 |
| 23) 日本薬局方外規格集 | P70 |
| 24) 牧野和漢薬草圖鑑 | P14 |
| 25) 漢方と民間薬百科 | P176 |

【肩こり】急に肩がこったときには、甘肌15gとクチナシの実8gを炒ってから粉末とし、少し酔うぐらいに、酒で飲むと良い。

【解熱】乾燥した樹皮1回量15～20gを水600mlで煎じ、3回に分け、あたためて服用する。¹⁷⁾

(櫻皮と樺櫨について)

櫻皮と樺櫨は共に解毒性、排膿性を持ち、種類は異なるがフラボノイド成分を含むなど共通点があげられる。

(参考文献)

- | | |
|----------------|-------------|
| 6) 漢方製剤の知識 | P 57, 58 |
| 14) 和漢薬物学 | P 148, 149 |
| 15) 漢方・生薬の謎を探る | P 250～253 |
| 16) 漢方薬理学 | P 400 |
| 17) 薬草カラー大事典 | P 259 |
| 18) 大塚敬節著作集 | Vol. 7, 372 |
| 19) 日本薬局方外生薬規格 | P 8 |
| 20) 牧野和漢薬草圖鑑 | P 179 |
| 21) 新常用和漢薬集 | P 16 |
| 22) 治療薬マニュアル | P 370 |
| 23) 漢方と民間薬百科 | P 176 |
| 24) 原色和漢薬図鑑(下) | P 161～162 |

<諸国古伝秘方>・食傷（急性胃カタル）に桜の古い皮を黒焼きにし、白湯で用いる。

・熱病の解熱薬として煎じて飲む。

<経験千方>・痔疾で血がでるのに、桜の皮の黒焼きを酒に浸して乾かし、粉末にして酒で酔うほど飲む。

・二日酔い、打撲傷に桜の皮を煎じて飲む。

・腫れ物の口をあけるに、反鼻（まむし）に桜の皮を少し混ぜ、黒焼きにし、胡麻油にといてつける。

・鯉毒に桜の葉を煎じて飲む。

・蝮蛇（まむし）に咬まれたときには、桜の皮の煎じ汁をつける。

<妙薬博物筈>・河豚の毒にあたったときには、桜の皮を煎じて用う。

（1716～36）

<奇方録>・一切の食毒に、桜の甘皮を乾かし末にして用う。

（1806）

（使用方法）^{23）}

【はれもの】甘肌10gを1日分として煎じて飲む。発病初期によい。これでそのまま散ることがある。

【蕁麻疹、水虫】甘肌10gを1日分として煎じて飲む。または粉末にして1日6gを飲む。

【腸炎】桜の甘肌を用いて、しぶり腹の下痢に用いる。^{18）}

【打撲傷】乾燥した樹皮1回両15～20gを水400～600mlで煎じ、その煎汁をタオルに含ませ、患部に当てる。

【二日酔い】皮を黒焼きにして飲むか、花を塩漬けにしてたくわえ、必要なとき湯に振り出して用いる。

【魚肉による食中毒】フグ、カツオ、マグロ、毒キノコの中毒に甘肌10gを1日分として煎じて飲む。葉を煎じて飲んでも良い。または、スルメと甘肌を等量煎じて飲んでも効く。

【咳】実を搾った汁は、咳に効く。甘肌を煎じて飲んでも良い。

【皮膚炎】うるしなどにかぶれたときは、甘肌を煎じて飲むとともに、外皮とクルミの皮を煎じた汁で洗うと良い。

(産地)

全国各地で採集されるが主として徳島、宮崎、鹿児島などから産出する。²¹⁾

(品質)

【灰分】6.5%以下¹⁹⁾

【乾燥減量】14.0%以下(6hr.)¹⁹⁾

【選品】緑色を帯び、あまり厚みのないものが良品とされている。²¹⁾

(成分)

フラバノン配糖体：sakuranin, sakuranetin, genkwanin, glucogenkwanin^{6) 14)}
16) 24)

ステロイドの一種

(現代薬理)

- ・末梢性に作用して、気管支の蠕動運動を促進することが認められている。²²⁾
- ・気道粘膜の分泌を高め、痰をうすめる作用もあるとされている。²²⁾

* 櫻皮エキス cherry bark extract ~Brocin²²⁾

末：1g中櫻皮エキス66mg (帯灰紫褐色の粉末。特異な芳香と甘味)

液：1ml中33mg (暗赤褐色の液。特異な芳香と甘味)

用法：1回66~132mg (末1~2mg、液2~4ml) 1日3回に分服。

適応：急性気管支炎、肺炎、肺結核に伴う喀痰、喀出困難。

(江戸時代の民間療法の使用例)^{15) 24)}

先に記したとおり、中国のサクラはシナミザクラ、シロバナミザクラなどで、果実が主に用いられ、樹皮は全く用いられていなかった。櫻皮は江戸時代に我が国で民間薬として用いられていた。⁷⁾

<救民单方>・しゃっくりに桜の樹皮を黒焼きにし、粉にして白湯で用いる。

(1858)・痢疾に山桜の黒焼きと茶を等分し、粉にして用いる。

・きのこにあたったとき、桜の皮を煎じて用いる。

櫻皮 PRUNI JAMASAKURA CORTEX¹⁹⁾

(基原)

バラ科のヤマザクラなど主として産地に自生するサクラ類の周皮(コルク皮)を除いた樹皮。^{6) 17) 19) 21)}

ソメイヨシノなど栽植されているサクラ類も原植物とされるが、主として自生種で、あまり太くない樹(主幹の経約20cm以下のもの)から採取する。灰かっ色～赤かっ色の光沢ある容易に剥離されるコルク皮をまず剥ぎとったのち、帯緑色の皮を剥ぎ取って乾燥し、これを生薬とする。²¹⁾

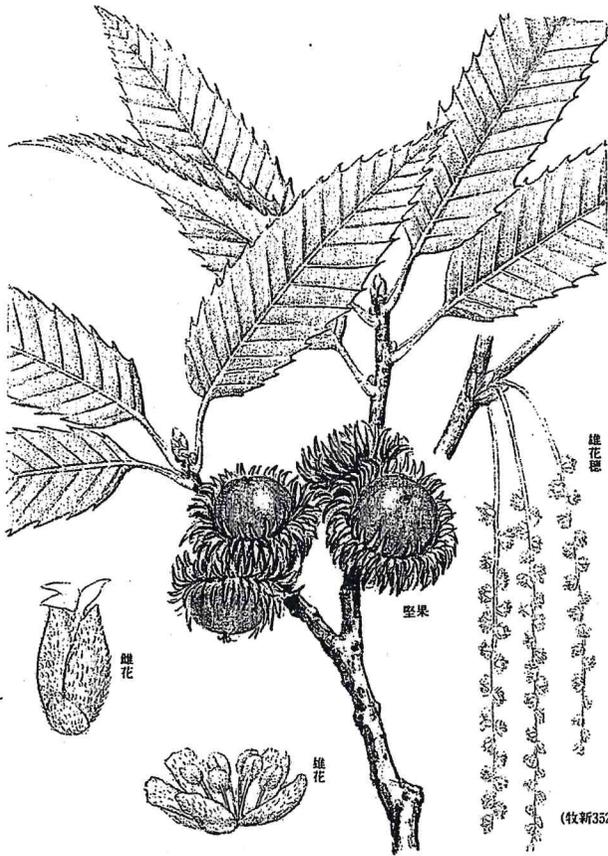
(由来)

サクラは古くは佐久良、佐区羅と書き、桜の字は用いていない。漢字の桜が出てくるのは『万葉集』からで、唐の文献にある桜桃の桜をサクラの漢字に当てたといわれている。中国にはヤマザクラはないので、このものに対する中国名はなく、また桜桃は我が国にはないカラミザクラ(シナミザクラ)の中国名で、日本で栽培されるセイヨウミザクラ(サクランポ)ではない。『古事記』の木花開耶姫の木花はサクラをさしたもので、開耶が転訛してサクラとなった語源説がある。¹⁷⁾

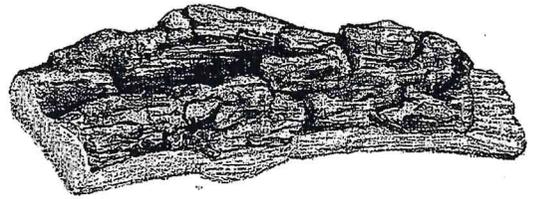
(性状)

やや巻き込んだ長い皮片で、厚さ2~5mm、外面はコルク皮が除かれていてほぼなめらかであり、淡灰緑色～淡かっ色を呈する。内面は平滑であるが、多数の細かい縦線が見られる。長く貯蔵したものは全体的にかっ色～帯赤かっ色を呈する。わずかに特有のにおいがあり、味はやや収れん性^{19) 21)}である。

本品の横切面を鏡検するとき、皮部柔組織には多数の石細胞及び異形細胞が不規則に並び、シュウ酸カルシウムの単晶及び集晶を含む柔細胞が点在し、師部繊維束は同心円状に配列する。周皮をつけているものでは、薄膜の細胞からなるコルク層中にシュウ酸カルシウムの単晶及び集晶を認め、これらの結晶を含みコルク細胞は放射方向に細胞列を形成している。¹⁹⁾



薬用部分：根皮、樹皮

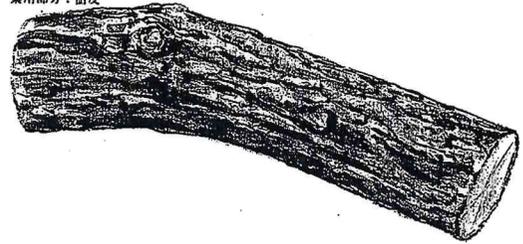


27. クヌギ (コナラ属)(ぶな科)

Quercus acutissima Carruth. (櫟, 橡)

【分布】本州から沖縄および朝鮮半島, 台湾, 中国東北・北部, ラオスからネパールの暖帯に分布。山林に生え, 通常植栽される落葉高木。【形態】幹は直立, 枝が多く, 樹高17m, 径60cmになる。樹皮に深い裂け目がある。葉は互生で長さ5~15cm。きょ歯の先端は緑でないでクリと区別できる。花期は春。雌雄同株。堅果は径2cm, 翌年秋に成熟し, ドングリと呼ぶ。【薬用部分】根皮または樹皮(樸櫟(ホクソク))。殻斗も薬用にされる。冬, 果実の成熟後に採集する。殻斗ごとつみとり, 日干しにした後に殻斗をとり除き, さらに十分に干しあげ, 通風のよい乾燥した場所で保存する。【成分】種子はでん粉, 脂肪油を含む。殻斗, 樹葉はタンニンを含んでいる。生薬であるホクソウは, クヌギやカシワなどのぶな科の *Quercus* 属の枝または樹皮を乾燥したもので, フラボノイドのサクラネチン, ゲンカンニン, サクラニン, グルコゲンカンニンなどを含有するほか, 一種のステロイドが存在する。【薬効】腸を弛ませ, 止瀉, 収れんする。痔の出血を治す。【使用法】内服としては, 煎じるか散剤として服用する。外用としては, 白でひいて酢を加えて塗布する。また薬性を残す程度に焼き, すって調べて塗布する。【その他】収れん薬としてだけでなく, 媒染剤, なめし皮剤としても利用される。また材は良質の木炭をつくり, 池田炭またはサクラ炭という。和名は国木の意味であるといわれる。古名はツルバミ。

薬用部分：樹皮

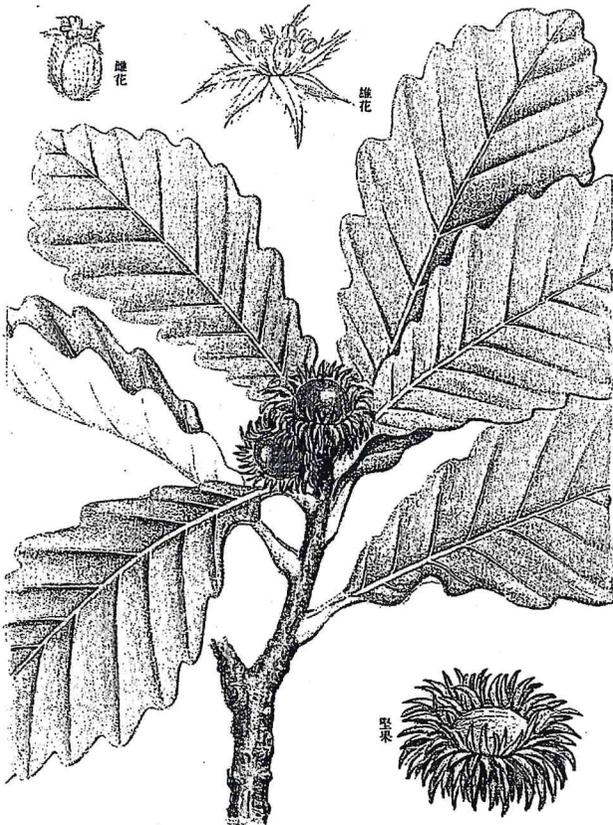


28. カシワ (カシワギ, モチガシワ)

Quercus dentata Thunb. (コナラ属)(ぶな科)

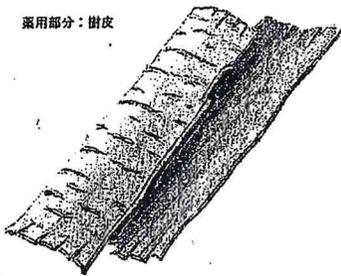
(栢)(中)櫟樹

【分布】北海道から九州および朝鮮半島, 南千島, ウスリー, 中国に分布し, 山野に生え, あるいは植栽される落葉高木。【形態】樹高15m以上になる。幹は直立し, 葉は大きく, 倒卵形で縁は粗い波状鈍きょ歯がある。秋には枯れても脱落せず越冬する。花期は5月。雄花の尾状花穂は下垂し黄褐色の小さな花をつける。堅果はほぼ球形で殻斗はわん形で多数の鱗片がある。【薬用部分】樹皮(櫟樹(コクジュ)), 葉(櫟葉(コウヨウ)), 果実。葉は夏に採取し, 樹皮は秋に木を切り倒してとったものを日干しにする。【成分】樹皮にはタンニン, フラボノイド, でん粉, ショ糖, 脂肪など, 葉にはタンニン, 果実にもタンニン, フラボノイド, でん粉, 脂肪などが含まれる。【薬効と薬理】多量のタンニンを含有するので, 収れん作用があり, ほかに殺菌, 強壯などの作用がある。樹皮を下痢, でき物, 葉を吐血, 痔の出血などに使用する。【使用法】下痢には樹皮を1日3~4gを煎じて服用する。でき物, やけどやかぶれには煎汁を塗布するとよい。駆虫剤, 淋疾には葉を煎じて服用し, 腫れ物などには煎汁を外用する。また下痢や腺病質には, 果実を煎じたものを服用する。このほか媒染剤やなめし皮剤としても用いられる。【その他】カシワは炊葉で食物を盛る薬という意味である。これは葉が大きく広いので便利に利用されて, 今日ではサクラなどの葉と同様に餅を包むのに使われている。ほかに種子や果実も食用に供されている。





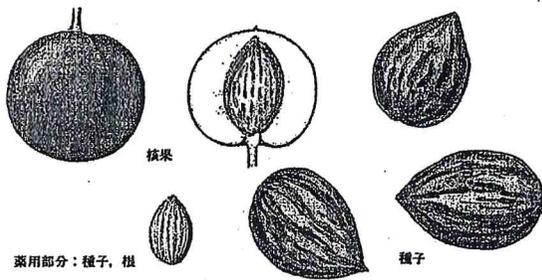
薬用部分：樹皮



339. ヤマザクラ [サクラ属] (ばら科)

Prunus jamasakura Sieb. ex Koidzumi (= *P. donarium* Sieb. var. *spontanea* Makino) (山桜)

【分布】関東地方以西，四国，九州および朝鮮半島に分布し，山地に生える落葉高木。【形態】樹高20mに達する。幹は直立し分枝する。樹皮は灰色または暗灰色。横に長い皮目がある。若葉は赤褐色で成葉は上面が緑色で，裏面は白味をおびた淡緑色。葉は柄があり，倒卵形。縁にきよ歯があり，長さ10cm位。若葉は上面にわずかに毛があるが，成葉になると両面無毛。葉柄上部に2個の腺点がある。花期は4月。葉と同時に，花軸の短い散房花序をつけ，花軸は長さ約2cm，基部は鱗片がある。花は淡紅白色で花柄は2cm，基部に苞葉があり，がく片は5枚，がく筒は基部でふくれない。花弁5枚。雄しべ多数，雌しべ1。核果は黒紫色。【薬用部分】樹皮(桜皮(オウヒ))。【成分】樹皮にフラボノイドのサクラニン，サクラネチン，グルコゲンカニン，ナリゲニン，ゲンカニンなどを含む。【薬効】桜皮を解毒，鎮咳薬として，咳，湿疹，じんま疹などに用いる。【用法】桜皮1日3～4gを煎剤として用いる。【その他】近縁のイヨウミザクラ *P. avium* L. の樹皮は新鮮なものは瀉下作用，干したものは制瀉作用があるという。また出血を止め，墮胎薬としても用いる。古来，ヤマザクラの樹皮は食中毒，急性胃カタルなどに多く用いられてきた。ヤマザクラの内果皮は，日本の洪積世時代から遺物として報告されている。ヤマザクラは山中に生える桜の意味である。



340. ニワウメ(コウメ，リンショウバイ，イクリ)

Prunus japonica Thunb. [サクラ属] (ばら科)

(庭梅) (中) 郁李

【分布】中国北部原産で日本，中国などに主に観賞のために広く庭園などに植栽される落葉低木。【形態】樹高約1.7m前後で多枝。葉は互生，卵状皮針形で葉縁に低い重きよ歯を有す。花期は4月頃。葉より先に紅色，淡紅色，あるいは白色の花をつける。核果は7～8月頃熟し，1cmほどの球形で光沢のある赤色である。【薬用部分】種子(郁李子(イクリシ)，郁李仁，李仁)，根(郁李根)。種子は，果実が成熟する秋に採取し，果肉を除去して殻を日干しにする。乾燥後，殻を割って中の種子をとり出してさらに日干しにして乾燥させる。根は必要時に掘りとり，水洗いの後に通風のよい所で乾燥させる。【成分】青酸配糖体のアミグダリン，サボニン，フィステロール，ビタミンB₂などを含む。【薬効と薬理】詳細は不明であるが，利尿，便通，止痛，水腫に有効とされる。【用法】利尿，便秘に対しては，乾燥した郁李仁1日量4～12gに水300mlを加え均量になるまで煎じ，空腹時に2回に分けて服用する。歯痛，歯ぐきの腫れには，乾燥郁李根8～12gを刻み水300～400mlを加え，半量になるまで煎じ，冷ました液でくちくちがえしがついる。【その他】現在市場には郁李仁として小李仁と大李仁がある。前者はニワウメのほかチョウセンニワウメ *P. nakaii* Lévl.，コウザクラ *P. humilis* Bge. の成熟種子を乾燥したもので，薬用には小李仁が正品とされている。大李仁はユスラウメ *P. tomentosa* Thunb. などの種子である。

